

よくある質問 Q&A

ご見学やご相談の際に、親御さんからよくいただくご質問を Q&A 形式でまとめました。施設のご利用や支援内容に関するご不明点を解消していただければ幸いです。どうぞご覧ください。※ 順不同で列挙しております。ご容赦ください。

1. サービスの利用対象年齢は何歳から何歳までですか？

6歳（から18歳までの就学児童が対象です。小学校から高校卒業までご利用いただけます。

2. どのような支援が受けられますか？

LST（生活スキルトレーニング）と SST（ソーシャルスキルトレーニング）を中心に、個々の成長に合わせた支援を行っています。特に日常生活の自立や社会性の向上を重視しています。

3. 送迎サービスはありますか？

はい、送迎サービスを提供しています。（片道15～20分を想定）各事業所、地域や時間に応じて対応しますので、詳細はお問い合わせください。

4. 施設の利用時間や曜日はどうなっていますか？

平日は13:00～17:30、土曜日や長期休暇は10:00～16:00までご利用いただけます。学校開校時、13時以前の下校になった場合は、授業終了後の時間にお迎えにまいります。

5. 支援の内容はどのように決まりますか？

初回の面談やアセスメント（1か月を基準）を通じて、お子さん一人ひとりに合った個別支援計画を作成します。ご成長に応じて定期的に見直しを行います。

6. 一人ひとりに合わせた個別支援はありますか？

もちろんです。お子さまの得意なことや課題に応じて、個別に支援を行い、達成可能な目標を設定します。登所後のルーティンとして個別課題（作業課題等）に取り組むなど、ニーズに応じて支援を行っております。

7. どのような活動やプログラムが行われていますか？

室内ゲーム、制作活動、グループでの社会スキル訓練（SST）など、多岐にわたる活動を通じて、楽しみながら学び成長できるよう工夫しています。ASTEPでの活動の幅は広く、得意を見つけ、その強みを活かしながら、苦手なことにも前向きに挑戦する姿勢をサポートします。

8. 施設のスタッフはどのような資格や経験を持っていますか？

児童発達支援管理責任者や児童指導員をはじめ、臨床心理士、公認心理師、作業療法士、保育士、教員免許等の資格を保有する支援員が、お子さんをサポートします。

9. 費用について教えてください。どのような補助や助成が受けられますか？

放課後等デイサービスは自治体の補助が適用され、自己負担額が軽減されます。具体的な負担額は、上限負担額は所得に応じて設定されます。お住まいの自治体へご確認ください。

10. 他の放課後等デイサービスとの違いは何ですか？

ASTEPでは、幅の広い活動機会を設定しながらLSTとSSTを組み合わせた支援を行い、お子さんの社会的自立に向けた成長を支援しています。個別性を大切に、楽しみなが

ら成長を促す活動が特徴です。また、ニーズのある方のみ、隔週の土曜日、約1時間枠で『作業療法士等の個別療育』を実施しております。お気軽にご相談ください。

11.食事の提供はありますか？

ご利用毎におやつを提供しています（100円/日）土曜日の活動や特別な行事がある日は各自でお弁当をお持ちいただいています。調理活動の際は、十分な量を提供しておりますが、偏食やアレルギーをお持ちのお子さんについては、別途ご準備いただいております。

12.放課後等デイサービスの利用回数に制限はありますか？

法的な制限はありませんが、乙訓圏域の月の上限支給量は15日となっております。したがって週に1回から3回までの利用が一般的です。（京都市を除く）ASTEPでは効果の定着を図るため、継続した療育活動を実施していることから、週2回からのご利用をお願いしております。

13.医療ケアが必要な子どもも利用できますか？

医療ケアが必要な場合は事前にご相談いただければ、看護師の配置や医療機関との連携により対応できるかを確認いたします。たとえば、吸引や投薬の支援が必要な場合にも対応しています。

14.障害者手帳がないと利用できませんか？

基本的には、障害者手帳をお持ちの方が対象ですが、必ずしも手帳がないと利用できないわけではありません。発達障害やグレーゾーンのお子さまの場合でも、個別に対応できる場合がありますので、まずはお気軽にご相談ください。お子さまのニーズに応じて、適切なサポートを提供するための判断をさせていただきます。

15.どのようなプログラムが実施されていますか？

SST（ソーシャルスキルトレーニング）、LST（ライフスキルトレーニング）、運動プログラム、創作活動など、多様なプログラムを実施しています。子どもたちが楽しみながら成長できるよう、遊びや体験を通じた活動も積極的に取り入れています。

16.個別支援計画はどのように立てられますか？

お子さんの特性や成長目標に基づき、保護者や学校の先生、必要に応じ医療機関担当医と連携しながら、個別支援計画を作成します。定期的に見直しを行い、必要に応じてプランの調整も行います。計画作成過程については、①モニタリング→②原案の作成→③支援員会議→④個別支援計画完成となります。国や自治体が定めたガイドラインに沿って、計画を作成しています

17.学校との連携はありますか？

学校と連携しながら、お子さんの状況に応じた支援を行っています。学校での状況や学習面での課題を共有し、放課後等デイサービスでの支援に反映させています。

18.他の子どもとの交流はどのように行われていますか？

集団活動やグループワークを通じて自然な形で他のお子さんと交流を図るとともに、学齢や特性に応じて、課題のレベルを調整したり、グループ編成を行ったりしています。また、地域のイベントやスポーツ大会にも参加し、外部との交流機会も提供しています。

19.保護者も一緒に活動に参加できますか？

通常の活動は、保護者の存在がバイアスとなったり、他の子どもたちの緊張感を高める恐れがあるためです。そのため、保護者向けのイベントや、親子参加型のプログラムを定期的に開催しています。

20.利用開始までの手続きはどうなりますか？

初回のご相談から利用開始までのステップは、1.ご相談、2.見学・体験、3.個別支援計画の策定、4.契約・利用開始という流れになります。必要書類の提出もサポートいたします。

21.お迎えが遅くなった場合、対応してもらえますか？

事前にご連絡いただければ、遅延対応も可能です。

22.長期休暇中のプログラムはどのようになりますか？

長期休暇中は通常の支援プログラムに加えて、外出イベントや特別活動（社会見学、遠足、その他課外での活動）を実施します。お子さんが楽しみながら充実した時間を過ごせるよう工夫しています。

23.兄弟姉妹も一緒に参加できますか？

ご利用いただくには、受給者証をお持ちで、契約およびアセスメントを完了された方であることが必要です。

24.支援プログラムはどのくらいの頻度で見直されますか？

個別支援計画は半年に一度を目安に見直しを行い、お子さんの成長に応じて調整します。保護者との面談を通じて、プログラムの進捗も共有いたします。

25.子どもが楽しめるような工夫はどのようにされていますか？

子どもたちが自分から興味を持って参加できるよう、遊びや学びを組み合わせた活動を多く取り入れています。たとえば、運動遊びでは遊びの中で体を動かしながら協調性を学ぶことができる目標設定、制作活動では自分のアイデアを形にする楽しさを体験できるように工夫しています。

26.施設の見学時に持っていくものはありますか？

特に必要な持ち物はありませんが、お子さんに関する質問やご相談がある場合は、メモなどを用意していただくと便利です。見学中に確認したいポイントをリストアップしておくことをお勧めします。

27.支援プランはどのくらい柔軟に変更できますか？

支援プランはお子さんの成長や変化に応じて柔軟に変更可能です。定期的な面談や日々の活動を通じて、適宜プランの見直しを行い、必要に応じてサポート内容を調整します。

28.放課後等デイサービスは学校が終わってから何時まで利用できますか？

平日は学校終了後から 17:30 まで、土曜日は 16:00 まで利用できます。学校の終了時間が早い場合や特別な行事がある場合でも、事前にご連絡いただければ対応可能です。

29.特別支援学校に通っている子どもも利用できますか？

はい、特別支援学校に通っているお子さんもお利用いただけます。特別支援学校の指導要領と連携しながら、ASTEP でも適切なサポートを提供しています。

30.緊急時の対応はどのようになっていますか？

緊急時には、速やかに保護者さまへご連絡するとともに、必要に応じて医療機関とも連携します。施設内での事故や体調不良時には、適切な応急処置を行い、その後の対応も迅速に行います。緊急時の対応については『事業所マニュアル』をもって適切に判断、対応いたします。

31.見学だけでなく、体験もできますか？

はい、体験利用が可能です。実際にご利用されるのはお子さん自身ですので、どのような活動を行うかを体験することで、ASTEP の雰囲気やサポート内容を感じていただけますので体験されることをおすすめします。ご希望の日程をお知らせください。

32.プログラム内容はどのように決まりますか？

プログラム内容は、お子さんの興味や得意分野、成長の段階に合わせて決定しています。また、定期的に支援員が活動の進捗を確認しながら、効果的なプログラムを選定します。子どもたちの個性を活かしながら、楽しんで取り組める内容を工夫しています。なお、スケジュールは週単位で LINE にて情報発信しております。前週金曜日を基準に発信します。

33.施設の利用にあたり、持参するものはありますか？

基本的には特に持参するものは必要ありません。ただし、お子さんの個別のニーズに応じて、専用のアイテムが必要な場合はご相談ください。また、屋外活動がある日には帽子や水筒、着替え（下着等含む）などの持参をお願いすることがあります。

34.施設での活動は写真やビデオで記録されますか？

はい、活動の様子を記録するために写真やビデオを撮影することがあります。これらは保護者さまへの活動報告や施設内イベント時の共有に使用されます。なお、外部公開する際には事前に同意をいただきます。

35.お子さんの特性に合わせた支援はどのように行いますか？

一人ひとりの発達段階や個別のニーズに応じて、支援内容を柔軟に調整します。たとえば、コミュニケーションに困難がある場合には、視覚支援やジェスチャーを用いた指導を行い、自分で選択や意思表示ができるようにサポートします。

36.感覚過敏のお子さんに対応していますか？

はい、感覚過敏や感覚鈍麻があるお子さんに対しては、個別に対応しています。音や光の刺激を抑えた環境を整えるほか、活動中も過剰な刺激を避けるために配慮を行っています。

37.どのようにして保護者と情報共有していますか？

利用後の送付する連絡超（ASTEP では療育日誌）や、送迎時の情報共有に加え、定期的な面談を通じて保護者さまと密に情報共有を行っています。また、特定の課題やお子さんの成長状況に応じて、個別にご連絡を差し上げることもあります。

38.課題に取り組む際の支援はどのようにしていますか？

課題に取り組む際には、お子さんが自分で向き合う力、解決できる力を育てることを重視しています。手順書をもって見通しが持てるよう示したり、個別的な支援によりサポートをしながら達成感を感じてもらえるように工夫しています。

39.就学後の生活に向けた準備はどのように支援していますか？

中学や高校進学後の自立を見据えたスキルアップに取り組んでいます。たとえば、公共の交通機関の利用方法や時間の管理方法、社会的なマナーについての指導を行い、将来に向けた準備を支援しています。

40.保護者同士の交流はありますか？

はい、保護者同士の交流の場を提供しています。定期的に行われる保護者向けの勉強会や研修会を通じて、他の保護者と情報を共有したり、支援に関する悩みを相談する機会を設けています。

41.どのような運動プログラムがありますか？

体力や運動能力を高めるためのプログラムとして、室内での体操やボール遊び、外遊びやリズム運動などを実施しています。また、協調性やチームワークを育むための集団運動も取り入れています。お子さんたちの興味に合わせて、運動の内容を工夫しています。

42.創作活動のプログラムにはどんなものがありますか？

絵画や工作、調理など、創作活動を通じてお子さんが自分のアイデアを形にできるプログラムを提供しています。表現力や集中力を養い、達成感を得られるようサポートしています。テーマを決めて季節に合った制作も行っています。

43.自立を促すための生活スキル指導はどのように行っていますか？

日常生活に必要なスキルを育てるため、食事の準備や片付け、掃除、整理整頓などを子どもたちが自分でできるようサポートしています。また、時間の管理や金銭の使い方など、将来の自立に向けたトレーニングも行っています。

44.特別なニーズがある場合、事前に相談できますか？

はい、特別なニーズがある場合には事前にご相談ください。お子さんの状況に合わせた支援が可能かどうかを確認し、必要に応じて個別対応を行います。

45.集団での活動が苦手な場合、どのように対応していますか？

集団活動が苦手なお子さんには、無理なく参加できるように個別支援を行います。段階的に集団活動に慣れるためのサポートや、必要に応じて少人数での活動を用意し、自信を持って参加できるよう支援します。

46.施設内での衛生管理はどうなっていますか？

施設内では、定期的な消毒や清掃を徹底しています。また、手洗い等を習慣化し、お子さんが清潔な環境で安全に過ごせるよう配慮しています。

47.アレルギー対応はどのようにしていますか？

アレルギーをお持ちのお子さんに対しては、事前にアレルギー情報を共有していただき、提供するおやつや食材に配慮しています。支援員全員がアレルギー対応について理解し、安全に配慮しています。

48.将来の就労を見据えた支援は行っていますか？

将来的な就労を見据えて、職場体験や職業訓練を意識したプログラムを提供することがあります。例えば、社会体験活動（職場体験や軽作業）など、働くことへの興味や理解を深めるための機会を設けています。

49.外出イベントはどのように行っていますか？

外出イベントでは、公園や博物館、動物園への訪問など、お子さんが新しい環境で様々な経験を積めるような活動を計画しています。季節に合わせた行事やイベントも行い、社会的スキルや体験の幅を広げます。

50.子どもが参加したいプログラムを選べますか？

日々、集団活動でのプログラムをご用意しているものの、集団活動参加が難しいお子さんには、興味を持っているプログラムを用意し、選択できるようにしています。お子さんの自主性を尊重し、選択肢を提示することで、自分で決定する力を養います。

51.他の施設との交流はありますか？

定期的に他の放課後等デイサービス事業所、地域の方との交流イベントや合同イベントを企画し、部外の方、お子さんとの交流を深め、友達を作る機会を提供しています。

52.就学前の支援と就学後の支援に違いはありますか？

一般的に、就学前の支援では、生活習慣の確立や社会的なマナーを重視されています。就学後の支援では、社会性の向上に焦点を当てたサポートを行っています。お子さんの成長段階に応じて、支援内容を柔軟に変えていきます。

53.療育と学習支援のバランスはどのようにしていますか？

療育を通じて社会性や感情コントロールのスキルを育てつつ、学習支援では宿題のサポートや勉強時間の確保も行います。しかしながら、ASTEPでは集団療育を軸に活動を計画しているため、可能な限り集団活動への参加をお願いしており、その点について保護者の皆様にもご理解をいただいております。

54.運動が苦手な子どもへの対応はどうなっていますか？

運動が苦手なお子さんには、個々のペースに合わせた活動を行います。無理なく楽しめるよう、体を動かす楽しさを感じられるようなサポートを行い、少しずつ運動に慣れていくことを目指しています。

55.人見知り強い子どもへの対応はどうなっていますか？

人見知り強いお子さんに対しては、少人数のグループ活動から始め、徐々に他の子どもたちとの交流を広げていく支援を行います。無理せず、安心できる環境でゆっくりと馴染めるようにサポートします。

56.子どもが通う学校と施設での支援内容は連携していますか？

はい、学校での支援内容や課題に応じて、放課後等デイサービスでの支援を調整します。連携を通じて、学校での取り組みを補完する形で、学習面や社会性の向上をサポートします。

57.施設的环境はどのようになっていますか？

施設は明るく、広々とした空間を提供しており、子どもたちが安全に過ごせるよう設計されています。遊びのスペースや静かに過ごせるスペースなど、さまざまなニーズに対応できる環境を整えています。

58.学校との連携のどのようになっていますか？

お迎え時には担任の先生から当日の様子についてフィードバックを受けるとともに、必要に応じて ASTEP での活動成果もお伝えします。また、ASTEP では定期的に学校参観（授業）に参加し、学校での様子をアセスメントして、日々の療育活動に活かせるようにしています。

59.夏休みや冬休みの長期休暇中の活動はどのようなものがありますか？

長期休暇中には、普段行うことができない課外での活動を多く設定しております。例えば、動物園への遠足や博物館への訪問、夏祭りのような季節の行事を楽しむ活動もございます。

60.療育活動の効果はどのようにして実感できますか？

療育活動を通じて、子どもたちが少しずつ自立心を育み、集団行動や自己表現ができるようになる姿を見ていただけます。活動中の成長は定期的な面談や療育日誌を通じて、保護者の方々にフィードバックいたします。

61.放課後等デイサービスの利用は短期でも可能ですか？

ASTEP では、中・長期的な療育支援を行うことから、短期でのご利用についてはお受付しておりません。また、ご利用については週2回からをお願いしております。（療育の経過を追う観点から）

62.施設での活動中に保護者が見学することは可能ですか？

事前にご相談いただければ、施設での活動の見学も可能です。お子さんの様子を実際に見ていただくことで、支援の状況をより理解していただけます。

63.感情のコントロールが難しい子どもへの対応はどのようにしていますか？

感情のコントロールが苦手なお子さんには、安心できる環境を提供しながら、少しずつ自分の感情を言葉や行動で表現するスキルを身につける支援を行います。視覚的な支援やリラクゼーション技術を用いて、ストレスを和らげるサポートも行います。

64.おやつや食事の時間にはどのようなルールがありますか？

おやつや食事の時間は、お行儀や食事のマナーを身につける機会として活用しています。みんなで一緒に楽しく食べることを大切に、食べ物の感謝やコミュニケーションの場としても取り入れています。

65.親子で参加できる活動はありますか？

はい、親子で一緒に楽しめる活動やワークショップを定期的を開催しています。例えば、親子で一緒に制作・調理を行うイベントや、親子での運動会などを企画しています。

66.子どもが好きなことを尊重してくれますか？

はい、お子さんたちが興味を持っていることや好きなことを尊重し、個別のニーズに応じたプログラムを提供しています。得意なことを見つけ、自信を持って取り組めるようにサポートしています。

67.どのようにして子どもの進歩を評価していますか？

お子さんの日々の活動や課題への取り組み状況を評価し、目標に対する達成度を確認しながら、詳細に記録しております。保護者との定期的な面談を通じて、進捗状況を共有し、次のステップを決めていきます。

68.利用を検討している段階で、どのような質問をすれば良いですか？

お子さんの特性に合わせた支援が可能かどうか、送迎サービスの対応範囲、施設内の環境やプログラムの詳細など、具体的な支援内容やサービス内容について質問されることが多いです。また、実際に利用した場合の生活スケジュールもご確認いただくと良いでしょう。

69.どのようにして支援員が子どもにアプローチしていますか？

スタッフは、お子さん一人ひとりの個性やニーズを把握し、それに基づいた柔軟なアプローチを行います。たとえば、子どもが自分で考え行動できるように促しつつ、必要なサポートを適時提供します。また、安心して活動できるよう、リラックスした環境を作ることを心がけています。

70.保護者が自宅でできるサポートについてアドバイスをもらえますか？

はい、保護者の方が自宅で行えるサポートについてもアドバイスをを行っています。療育での活動や進歩に基づき、家庭での対応策や取り組み方について、具体的な提案をさせていただきます。

71.利用を希望する場合、必要な手続きはどのようになりますか？

まずはご相談いただき、見学や体験を通じて施設の理解を深めていただきます。（乙訓圏域にお住まいの方は、相談支援事業所との契約が先になります）その後、契約手続きを行い、個別支援計画を策定します。必要書類や手続きの詳細については、施設管理者がサポートいたします。

72.他の福祉サービスとの併用は可能ですか？

はい、他の福祉サービスとの併用が可能です。たとえば、児童発達支援や医療機関のリハビリサービスと並行してご利用いただくケースもあります。それぞれのサービスが連携できるようサポートいたします。

73.学校での宿題のサポートはありますか？

はい、放課後の時間を使って学校の宿題に取り組むサポートを行っています。支援員が宿題の進め方をサポートし、理解を深めながら自主的に学習できる環境を提供します。

74.発達の遅れが心配なのですが、どのように対応していますか？

発達の遅れが心配なお子さんには、個々の状況に合わせたプログラムで支援を行います。たとえば、言葉や動作の発達を促すための個別指導やグループ活動を通じて、少しずつ自信を持てるようなサポートを行います。

75.苦手なことに取り組む際のサポートはどのように行っていますか？

苦手なことに取り組む際には、支援員が無理のない範囲でサポートし、少しずつチャレンジできるように進めていきます。成功体験を積み重ねることで、苦手意識を克服できるよう、励ましながら進めます。

76.子どもが施設に馴染むのに時間がかかる場合、どのようにサポートしますか？

施設に馴染むのが難しいお子さんには、特に支援員が寄り添いながら少しずつ環境に慣れる支援を行います。最初は短時間の利用や個別対応から始め、安心して活動できるようになるまでサポートを続けます。

77.他の利用者とのトラブルがあった場合、どのように対応しますか？

他のお子さんとのトラブルが発生した場合は、速やかに支援員が介入し、双方の気持ちを尊重しながら解決に向けたサポートを行います。また、トラブルについてはもれなく保護者にも報告し、今後の対策について話し合います。

78.子どもが嫌がる場合、無理にプログラムに参加させることはありますか？

無理にプログラムに参加させることはありません。お子さんが嫌がる場合は、その理由を確認し、別のアプローチを検討します。無理なく、楽しんで参加できるよう、プログラム内容や進行方法を柔軟に調整します。

79.子どもの特性に合わせた個別支援はどのように行われていますか？

子ども一人ひとりの発達段階やニーズに合わせた個別支援計画を作成し、日常の活動や療育プログラムに反映しています。たとえば、コミュニケーションが難しいお子さんには視覚支援を用いたり、運動能力の向上を目指すプログラムでは段階的なサポートを行います。

80.支援員はどのようにして子どもたちとコミュニケーションを取っていますか？

支援員は、子どもたち一人ひとりのコミュニケーションスタイルを理解し、それに合わせたアプローチを行います。言葉が苦手なお子さんにはジェスチャーや視覚的サポートを使用したり、遊びを通じて自然にコミュニケーションを促すこともあります。